

新しい文化を築いた人々…

先人顕彰シリーズ⑫

小松五平 川村 薫

当先人顕彰館は、鹿角にゆかりの深い先人に関する資料の発掘収集・保存、事跡の調査研究と公開展示をしております。

世界的な東洋史学者「内藤湖南」、十和田湖の開発に尽力した「和井内貞行」の両氏をメインに常設展示し、さらに各界の先覚者を順に展示紹介しております。



鹿角市先人顕彰館 ☎ FAX 0186-35-5250

〒018-5334 秋田県鹿角市十和田毛馬内字柏崎3番地2

略 歴

◎小松 五平

- 明治24年 1891 • 1月14日上埜平治・さ登の六男として鳴子温泉に生まれる。
- 明治40年 1907 • 17歳で鳴子の高橋万五郎に師事。その後各地でこけしを製作。
- 大正3年 1914 • 山形県上ノ山・小松留三郎の妹アサと結婚する。
- 大正10年 1921 • 大湯に招かれ定住、こけし製作を続ける。
- 昭和35年 1960 • 鳴子町より鳴子旧系こけしの伝統を継ぐ工人として表彰される。
- 昭和38年 1963 • 第5回全国こけしコンクール大会で名人位を獲得する。
- 昭和43年 1968 • 大湯の奈良吉弥が五平に弟子入りする。
- 昭和47年 1972 • 11月19日死去、享年81歳。

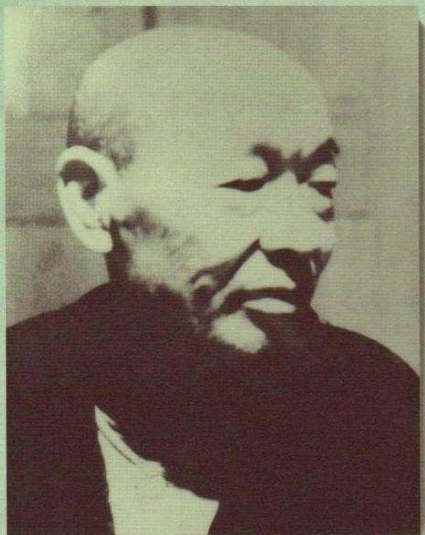
◎川村 薫

- 明治30年 1897 • 花輪横町に生まれる。父 才太郎・母 カツ。
- 大正5年 1916 • 花輪青年会が青年会誌（のち「青年乃鹿角」と改題）発行第1号から執筆。
- 大正7年 1918 • 農商務省興津農事試験場に入り恩田園芸部長から最新の果樹栽培技術習得。
- 大正8年 1919 • 帰郷、郡の委嘱により果樹栽培技術指導にあたる。
- 大正14年 1925 • 花輪町町会議員に当選（昭和14年まで）
- 昭和2年 1927 • 「青年乃鹿角」改題「鹿角時報」主幹。昭和6年「鹿角小唄」作詞。
- 昭和27年 1952 • キク夫人の発案で十和田湖畔休屋に親切を売る店秋田屋開店。
- 昭和42年 1967 • 花輪町文化功労者表彰。51年4月21日死去、享年79歳。

小松五平の業績

1891-1972

鳴子旧系こけしを継承した名工



明治24年、宮城県鳴子温泉に生まれ、17歳でこけし工人に弟子入りして以来、花巻、盛岡、仙台など各地で修業。大正10年、31歳の時、観光物産開発に力を入れていた大湯ホテルの諏訪富多に招かれて大湯温泉に来住。以後50年間、鳴子の旧系こけしの伝統を守った「五平こけし」を作り続けた。

胴のくびれと模様は年代を追って微妙に変化するが、眼と眼の間が広がった特徴ある表情は多くの愛好者を引き付けてやまなかった。第5回全国こけしコンクール大会で名人位を獲得するなど、その評価は非常に高く、今に名を残す名工である。

川村 薫の業績

1897-1976

果樹指導と郷土新聞の草分け

教育家の家庭に育った。叔父の果樹園を手伝った後、静岡県の興津農事試験場に学んだ。大正8年、鹿角郡から委嘱され、30年余の長きにわたり果樹栽培の技術指導にあたった。

大正5年から花輪青年会の機関誌『青年会誌』の編集を担当した。大正10年、『青年乃鹿角』となった同誌が、昭和2年、『鹿角時報』と改題、その主幹（後に社主）として地元の世論形成の大きな力となった。また、鹿角の景勝・民俗・伝統文化を愛し、顕彰保存に尽力した。大正14年から昭和14年まで花輪町議として地方自治の発展にも貢献した。

